

## 「デス・マス+文末表現」の転訛形と非転訛形について

—田辺聖子の小説を用いて—

村中淑子

桃山学院大学

tmuranaka@andrew.ac.jp

### A Study of the Phrases Which Have Transformed Sounds

### in Polite Style of Osaka Dialect: Using Tanabe Seiko's Novels

MURANAKA Toshiko

St. Andrew's University

*Key Words: Generation, Gender, Language Control Skills, Treatment Expression*

#### 1 はじめに

##### 1.1 アイデンティティーに関連する言語変種選択

社会言語学において扱われるべき問題の1つとして、状況に合わせたことばづかいの変異がある。同じ命題内容を伝えるために用いられ得る複数の言語変種、あるいはその組み合わせについてのしくみを解明することである。今まで、場面的要素あるいは人的要素<sup>1</sup>が、言語変種を選択を説明する重要な要因として位置づけられ、多くの調査・研究が行われてきた。

本稿では、話し手の性別・年代とアイデンティティーという観点から、言語変種選択の問題を考える。これは、人的要素のうちの属性および属性にまつわる心理的側面の一部をクローズアップしたものである。

個人のアイデンティティーに関連して、どのような言語変種を選択しうるのか。具体的な選択肢のセットとしてどのようなものがあり得るか。たとえば、次のようなものが挙げられる<sup>2</sup>。

ア 地域特有の語形を使うかどうか

イ 世代特有の語形（若者語、老人語等）を使うかどうか

ウ 性差のある語形（男性語、女性語）を使うかどうか

エ 集団語（キャンパス用語、職場用語、専門用語等）を使うかどうか

上記のア・イ・ウ・エはいずれも、話し手が何らかのカテゴリーに属する人間であるという、そのカテゴリーらしさを表現するかどうか、と関わる。個人のアイデンティティーの表現は、自分がどのようなカテゴリーに属する存在かを示すことと関わりがある<sup>3</sup>。

アは、話し手が、ある地域の出身者であるという属性を示すかどうかである。地域方言形を使うことでその地域の人間であることを示してもよいし、共通語形を使うことで自分の地域性を示さないようにすることも可能である。ある地域の出身者ということを表すだけでなく、その地域方言について人々が持っているイメージを活用して自己表現につなげることもありうる。たとえば大阪方言を用いることで親しみやすい人間であることを表現する、あるいは東北方言を用いることで素朴な性格であることを表現する、などの可能性がある。

イの世代特有語、ウの男性語・女性語、エの集団語は、その言語変種そのものが、属性カテゴリーを端的に表す役割を持つ。実際にその集団に属するというを表すだけでなく、たとえば、女性語を使えば女性らしさ、若者ことばを使えば若者らしさ、専門語を使えば専門家らしさ、というそれらしさの印象を与えることが期待できる。

しかしここで問題にしたいのは、たとえば男性語は男性らしさを表す、といった単純な対応関係しかないのか、ということである。男性語には、話し手が男性というカテゴリーに属することを示し、それらしさの印象を与える以外にも、アイデンティティと関係する何かの機能があるのではないか。また、男性語とされているものを女性が用いた場合はどのような機能を果たすことになるのか。そのような現象について、使用文脈を詳しく観察することにより、明らかにすべきではないか、ということである。

## 1.2 「中高年男性語」の使用

「中高年男性語」と呼べそうなニュアンスを持つ一連の語彙がある。前述したア・イ・ウ・エの選択肢の、イとウの組み合わせだったものである。「おじさんことば」と呼んでもよい。たとえば、自称詞のワシや、文末に現れるジャなどである。

金水(2003)では、これらの語形を「役割語」のなかの「老人語」として扱っている。

「役割語」とは、「言語上のステレオタイプ」であり、人々が「現実に対して持っている観念」であり、いわば「仮想現実」なのである、と金水は述べている。

ところが、現実世界において、たとえば自称詞のワシを、若年女性が使用しているのを見ることがある<sup>4</sup>。「中高年男性語」をなぜ若年女性が使用するのであろうか。若年女性は、性、年代、のいずれの属性カテゴリーにおいても「中高年男性」と対立する存在である。自らの属性カテゴリーと対立する属性カテゴリーを表す言語変種をわざわざ使用することは、どのような機能を持ち、アイデンティティとどのように関わるのだろうか。

## 1.3 デスマス転訛形・非転訛形について

大阪方言<sup>5</sup>においては、丁寧の助動詞デスあるいはマスに、文末助詞や助動詞の接続した形が、豊富に存在する。たとえば、デス・マスに助動詞ヤロが接続したデスヤロ・マスヤロ、助動詞ネンが接続したデスネン・マスネン、などである。さらに、それらが音声転

訛した形も存在する。デスヤロ・マスヤロの転訛形デッシャロ・マッシャロ、デスネン・マスネンの転訛形デンネン・マンネン、などである。

本稿では、デッシャロ・マッシャロやデンネン・マンネンのような「デスマス+文末表現」の転訛した形（以下、デスマス転訛形<sup>6</sup>と呼ぶ）と、デスヤロ・マスヤロ、デスネン・マスネンのような「デスマス+文末表現」の転訛しない形（以下、デスマス非転訛形と呼ぶ）について、調べる。

これらはいずれも、大阪方言においては一般的に「中高年男性語」のイメージを持っているとみてよいだろう。

特にデスマス転訛形は、大阪方言における「中高年男性語」という「役割語」である、という見方をする人もいるかもしれない。ここで、デスマス転訛形に関わる先行研究を少しあげてみよう。

山本俊治(1965)によれば、当時、大阪方言一般においては、マヘン、マッシャロ、マッカ、マンノン、デンネン、デッシャロなどがよく用いられるが、女子学生にあってはほとんど用いられない、ということであった。

岸江信介・井上文子(1997)では、ソーデッシャロ、ソーデスヤロ、アリマッカが調査項目の一部として取り上げられている（1993年～1994年の調査結果）。そこに示されたグラフをみると、細かい違いはあるものの、3語形とも当時30代以上の男性が多く使う傾向のあること、10代と20代の使用は少ないことが見てとれる。

以上のように、先行研究の調査によれば、デスマス転訛形は、イメージだけではなく実際に、中高年男性が使用していたものなのである。そして、これらの語形が若い層に使われていないことから、将来どうなっていくかについては、2通りの見方が可能である。

(1) 衰退し消えていく、(2) 中高年世代語として残っていく、の2通りである。

別の語形であるが、たとえばナハル（なさる）という語形については、1998年実施の東大阪市調査の結果、古臭く死語になりつつあるという従来の印象に反し、「中高年世代語」として生き残っている可能性が示唆された（田原広史・村中淑子 2002）。

デッシャロ、マンネンなどのデスマス転訛形も、必ずしも衰退の一途をたどっていくのではなく、「中高年世代語」として生き残っていく可能性もあると考えられる。

#### 1.4 本章の目的

本稿では、田辺聖子(1928-2019)の多くの小説群のうち、1970年代から1980年代にかけて書かれた長編小説を資料とし、デスマス転訛形・デスマス非転訛形が、どのような登場人物によってどのように使われているかについて、分析する。

昭和の終わり頃の大阪方言における、デスマス転訛形・デスマス非転訛形と話し手のアイデンティティーとの関わりを探ることが目的である。

## 2 資料と方法

### 2.1 調査に用いた資料

田辺聖子(1928-2019)は大阪市に生まれ育った大阪方言ネイティブである。田辺聖子の小説には大阪方言を話す人物が多数出てくるが、どの人物も同じような大阪方言を話しているのではなく、人物ごとに少しずつニュアンスが変えられている。その人物の設定に合わせて、コテコテの大阪方言か、あっさりした大阪方言か、上品な大阪方言か、わざと下品に話す大阪方言か、といった変化がつけられているのである。田辺の小説における大阪方言は、小説世界に大阪的な色をつけるための飾りとして使われているのではなく、実際に存在する大阪方言文化の世界を、小説の中にリアルに描き出すために使われている、と考えてよいだろう。また、登場人物のセリフが醸し出すイメージについての説明がこまやかに書き込まれているのも、分析に好都合である。

田辺には多くの小説作品があるが、本稿ではそのうち 1970 年代から 1980 年代にかけて書かれた長編恋愛小説を資料とする。長編を使うのは、各人物の特徴が詳しく描かれていることが期待されるからである。1970 年代から 1980 年代にかけての作品を使うのは、小説作者としての田辺の脂の乗り切った時期だと思われるからである。また、田辺には「中年もの」と言われる一連の作品群<sup>7</sup>があり、それも大阪方言を調べるには適しているのだが、今回は中年世代だけでなく若い世代が中心的人物となっている小説を扱いたいため、「恋愛もの」を扱うことにした。

分析の対象とした作品は次の通りである。

「言い寄る」文春文庫：初出 1973、文庫 1978、調査文庫 1984（15 刷）頁数 273

「私的生活」講談社文庫：初出 1976、文庫 1981、調査文庫 1981（1 刷）頁数 270

「苺をつぶしながら 新・私的生活」講談社文庫

：初出 1982、文庫 1985、調査文庫 1985（1 刷）頁数 261

「愛してよろしいですか？」集英社文庫

：初出 1979、文庫 1982、調査文庫 1982（3 刷）頁数 326

「風をください」集英社文庫：初出 1982、文庫 1987、調査文庫 1987（1 刷）頁数 346

「愛の幻滅」講談社文庫：初出 1978、文庫 1982、調査文庫 1992(25 刷)、頁数 423

上記のうち「言い寄る」「私的生活」「苺をつぶしながら」は主人公および何人かの登場人物が同一であり、連作と言えるものである。同様に、「愛してよろしいですか」「風をください」も同一の主人公を扱った連作である。

これらはすべて主人公の 1 人称の形で書かれている。主人公はすべて大阪出身の若い女性であり、大阪方言を話す。主人公の周りの主な人物も大阪あるいは阪神間の出身で、大阪方言を話すという設定である。各作品の主要な登場人物名と設定を表 1 に示した。

表1 各作品の主な登場人物（カッコ内は年齢）

| 作品名         | 主人公               | 主人公の相手                    | そのほかの人物                                           |
|-------------|-------------------|---------------------------|---------------------------------------------------|
| 言い寄る        | 乃里子(31):イラストレーター。 | 剛(29):乃里子の恋人。鉄工会社の副社長。    | 水野(46,7):剛の別荘の隣人。アクセサリー会社社長。                      |
| 私的生活        | 乃里子(33)           | 剛(31):乃里子の夫。              | 中杉(47):剛の仕事関係の知人。                                 |
| 苺をつぶしながら    | 乃里子(35)           | 剛(33):乃里子の別れた夫。           | とむ 兔夢(40過ぎ):画家。<br>どら 銅鑼男 <sup>8</sup> (40位):落語家。 |
| 愛してよろしいですか? | すみれ(34):会社員。      | ワタル(22):すみれの恋人。大学生。       | 係長(40):すみれの上司。                                    |
| 風をください      | すみれ(35)           | ワタル(23):すみれの恋人。会社員。       | 伊豆(42):すみれの見合いの相手。                                |
| 愛の幻滅        | 眉子(28):会社員。       | 東野(41):眉子の恋人。化学会社の部長。妻帯者。 | みちる(28):眉子の同僚。                                    |

## 2.2 方法

各作品の文庫本を1頁ずつ目視し、デスマス転訛形・非転訛形の出現数を数えた。

デスマス転訛形としては、マヒョ、マヘン、マッカイナ、マッシュャロ、デッセ・マッセ、マンネン、等を取り上げた。

デスマス非転訛形としては、マサガナ、デスナ・マスナ、デスネン・マスネン、デスノ・マスノ、デスワ・マスワ、マスヤロ、等を取り上げた。

比較のために、マシヨ（ウ）、マセン、デスネ・マスネ、デスヨ・マスヨも数えた。

人物ごとの使用数を集計した後、用例を観察し、人物の属性や場面との関連を見る。

## 3 結果

対象とした作品から、デスマス転訛形、デスマス非転訛形、そのほかの語形を抜き出し、登場人物ごとの使用回数を数え、表を作成した。集計にあたっては、文末の長音の有無は無視した（例えば「ですな」「ですなあ」はいずれもデスナに含めている）。

表2にデスマス転訛形の出現数をまとめ、表3にデスマス非転訛形の出現数をまとめた。表4にはマヘンとマセンの比較、表5にはマンネンとマスネン、マッシュャロとマスヤロ、マヒョとマシヨウ、の比較、表6にはデスナ・マスナとデスネ・マスネ、デスワ・マスワとデッセ・マッセとデスヨ・マスヨの比較を示した<sup>9</sup>。

以下、表に基づき、順に説明していく。

表2 デスマス転訛形の出現数

| 作品   | 人物<br>と年齢 | まひよ | まへん | でっせ/<br>まっせ | まんねん | まっか<br>いな | まっしゃ<br>ろ | 計  |
|------|-----------|-----|-----|-------------|------|-----------|-----------|----|
| 愛して  | ワタル 22    | 0   | 0   | 0           | 0    | 0         | 0         | 0  |
| 風を   | ワタル 23    | 0   | 0   | 0           | 0    | 0         | 0         | 0  |
| 言い寄る | 乃里子 31    | 0   | 0   | 0           | 0    | 0         | 0         | 0  |
| 私的生活 | 乃里子 33    | 0   | 0   | 0           | 0    | 0         | 0         | 0  |
| 愛して  | すみれ 34    | 0   | 0   | 0           | 0    | 0         | 0         | 0  |
| 苺を   | 乃里子 35    | 0   | 1   | 0           | 0    | 0         | 0         | 1  |
| 愛の   | 眉子 28     | 0   | 1   | 1           | 0    | 0         | 0         | 2  |
| 私的生活 | 剛 31      | 0   | 1   | 1           | 0    | 0         | 0         | 2  |
| 風を   | 伊豆 42     | 0   | 1   | 1           | 0    | 0         | 0         | 2  |
| 言い寄る | 水野 46     | 1   | 1   | 0           | 0    | 0         | 0         | 2  |
| 風を   | すみれ 35    | 0   | 3   | 0           | 0    | 0         | 0         | 3  |
| 苺を   | とむ 40     | 0   | 1   | 0           | 2    | 0         | 0         | 3  |
| 苺を   | 剛 33      | 0   | 2   | 1           | 1    | 0         | 0         | 4  |
| 愛して  | 係長 40     | 0   | 1   | 2           | 0    | 1         | 0         | 4  |
| 私的生活 | 中杉 47     | 0   | 3   | 1           | 0    | 0         | 0         | 4  |
| 愛の   | みちる 28    | 0   | 4   | 1           | 0    | 0         | 0         | 5  |
| 言い寄る | 剛 29      | 0   | 3   | 1           | 0    | 0         | 1         | 5  |
| 苺を   | 銅鑼男 40    | 0   | 6   | 1           | 0    | 1         | 0         | 8  |
| 愛の   | 東野 41     | 1   | 10  | 6           | 0    | 0         | 0         | 17 |
|      | 計         | 2   | 38  | 16          | 3    | 2         | 1         | 62 |

表2は転訛形の合計の少ない人物から多い人物へ並べている。合計数が同じ場合は人物ごとに年齢の低い方から高い方へ並べた。同一人物でも作品ごとに分けて示した（表3以降も同様）。40歳以上の人物（7名）に網掛けを入れた。

デスマス転訛形のセリフが多いのは、40歳以上男性の、東野と銅鑼男である。特に銅鑼男は、出てくる場面が少ない割に転訛形が多く、特徴的と言える。40歳以上の男性が必ずデスマス転訛形が多い、というわけではない。伊豆、水野、中杉は出てくる場面もセリフもかなり多いのだが、デスマス転訛形は多くはない。20代前半のワタルは使用がゼロだが、ワタル以外の人物は、物語のどこかの段階で1回はなんらかの転訛形を使っている。40歳未満の人物の中で、みちると剛は転訛形が比較的多い。

転訛形の語形の中ではマヘンが最も多く、38例であり、次いでデッセ・マッセが16例である。40代男性は、一度はマヘンを使っている。

表3 デスマス非転訛形の出現数

| 作品   | 人物<br>と年齢 | ですな/<br>ますな | ですわ/<br>ますわ | ですの/<br>ますの | ですねん/<br>ますねん | ますやろ | ますがな |
|------|-----------|-------------|-------------|-------------|---------------|------|------|
| 言い寄る | 乃里子 31    | 0           | 3           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 私的生活 | 乃里子 33    | 0           | 14          | 3           | 0             | 0    | 0    |
| 苺を   | 乃里子 35    | 0           | 0           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 愛して  | すみれ 34    | 0           | 5           | 2           | 0             | 0    | 0    |
| 風を   | すみれ 35    | 0           | 11          | 1           | 0             | 0    | 0    |
| 苺を   | 銅鑼男 40    | 0           | 1           | 0           | 0             | 0    | 2    |
| 愛して  | ワタル 22    | 1           | 0           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 風を   | ワタル 23    | 1           | 0           | 0           | 2             | 2    | 0    |
| 苺を   | 剛 33      | 1           | 0           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 苺を   | とむ 40     | 1           | 2           | 0           | 1             | 0    | 0    |
| 愛の   | 眉子 28     | 2           | 2           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 私的生活 | 剛 31      | 3           | 2           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 愛して  | 係長 40     | 3           | 2           | 0           | 1             | 0    | 0    |
| 愛の   | みちる 28    | 4           | 1           | 2           | 0             | 0    | 0    |
| 言い寄る | 剛 29      | 4           | 4           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 言い寄る | 水野 46     | 14          | 2           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 風を   | 伊豆 42     | 20          | 4           | 0           | 0             | 2    | 0    |
| 愛の   | 東野 41     | 21          | 0           | 0           | 0             | 0    | 0    |
| 私的生活 | 中杉 47     | 22          | 3           | 0           | 0             | 0    | 0    |
|      | 計         | 97          | 56          | 8           | 4             | 4    | 2    |

表3は、デスナ・マスナの出現数を基準に、少ない人物から多い人物へ並べている。出現数が同じ場合は人物ごとに年齢の低い方から高い方へ並べた。

デスマス非転訛形の中では、デスナ・マスナが最も多く97例で、次いでデスワ・マスワが56例であった。

デスナ・マスナは40代男性の占める割合が高い。97例のうち81例を40代男性7名で占めており、80%を超えている。一方、デスワ・マスワは乃里子とすみれがよく使っている<sup>10</sup>。

表4 転訛形マヘン・非転訛形マセンの比較と転訛率

| 作品   | 人物と年齢  | まへん | ません | 計   | 転訛率        |
|------|--------|-----|-----|-----|------------|
| 言い寄る | 乃里子 31 | 0   | 6   | 6   | 0          |
| 私的生活 | 乃里子 33 | 0   | 15  | 15  | 0          |
| 愛して  | すみれ 34 | 0   | 5   | 5   | 0          |
| 愛して  | ワタル 22 | 0   | 5   | 5   | 0          |
| 風を   | ワタル 23 | 0   | 4   | 4   | 0          |
| 風を   | 伊豆 42  | 1   | 19  | 20  | 0.05       |
| 言い寄る | 水野 46  | 1   | 5   | 6   | 0.16666667 |
| 私的生活 | 剛 31   | 1   | 4   | 5   | 0.2        |
| 私的生活 | 中杉 47  | 3   | 12  | 15  | 0.2        |
| 愛して  | 係長 40  | 1   | 4   | 5   | 0.2        |
| 愛の   | 眉子 28  | 1   | 4   | 5   | 0.2        |
| 風を   | すみれ 35 | 3   | 11  | 14  | 0.21428571 |
| 苺を   | 乃里子 35 | 1   | 3   | 4   | 0.25       |
| 苺を   | とむ 40  | 1   | 3   | 4   | 0.25       |
| 愛の   | 東野 41  | 10  | 11  | 21  | 0.47619048 |
| 愛の   | みちる 28 | 4   | 4   | 8   | 0.5        |
| 言い寄る | 剛 29   | 3   | 0   | 3   | 1          |
| 苺を   | 剛 33   | 2   | 0   | 2   | 1          |
| 苺を   | 銅鑼男 40 | 6   | 0   | 6   | 1          |
|      | 計      | 38  | 115 | 153 | 0.24836601 |

(転訛率=マヘンの数÷(マヘンの数+マセンの数))

表4は、転訛率の割合の低い人物から高い人物へと並べている。

40代以上の男性には転訛率ゼロの人物がいないことから、マヘンの形になるのは中年層男性の特徴とも言えそうに見えるが、その一方で、20代女性のみちると30歳前後男性の剛はかなりマヘン転訛率が高く、眉子・乃里子・すみれといった20代・30代の女性も作品によっては転訛形マヘンを使っている。



表5 転訛形と非転訛形の比較

| 作品   | 人物<br>と年齢 | まんねん | ですねん/<br>ますねん | まっしゃ<br>ろ | ますやろ | まひよ | ましょ<br>(う) |
|------|-----------|------|---------------|-----------|------|-----|------------|
| 愛して  | ワタル 22    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 4          |
| 風を   | ワタル 23    | 0    | 2             | 0         | 2    | 0   | 0          |
| 愛の   | みちる 28    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 0          |
| 愛の   | 眉子 28     | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 4          |
| 言い寄る | 剛 29      | 0    | 0             | 1         | 0    | 0   | 0          |
| 私的生活 | 剛 31      | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 0          |
| 苺を   | 剛 33      | 1    | 0             | 0         | 0    | 0   | 0          |
| 言い寄る | 乃里子 31    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 0          |
| 私的生活 | 乃里子 33    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 2          |
| 苺を   | 乃里子 35    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 1          |
| 愛して  | すみれ 34    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 1          |
| 風を   | すみれ 35    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 7          |
| 愛して  | 係長 40     | 0    | 1             | 0         | 0    | 0   | 0          |
| 苺を   | 銅鑼男 40    | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 0          |
| 苺を   | とむ 40     | 2    | 1             | 0         | 0    | 0   | 2          |
| 愛の   | 東野 41     | 0    | 0             | 0         | 0    | 1   | 1          |
| 風を   | 伊豆 42     | 0    | 0             | 0         | 2    | 0   | 4          |
| 言い寄る | 水野 46     | 0    | 0             | 0         | 0    | 1   | 2          |
| 私的生活 | 中杉 47     | 0    | 0             | 0         | 0    | 0   | 2          |
|      | 計         | 3    | 4             | 1         | 4    | 2   | 30         |

表5は、人物の年齢順に並べた。マンネンとマスネン、マッシャロとマスヤロ、マヒヨとマシヨウ、という転訛形と非転訛形のペアを隣り合わせで示したが、いずれも出現数が一桁と少ないので、転訛率は出していない。

転訛形が40歳以上男性のみに分布しているのは、マヒヨだけである。出現数が少ないので確証はないが、マヒヨは中年男性語とみることができるかもしれない。マヒヨは2例とも、実際に出現したのは、マホの形である。次の通りである。

- ・「まあ、お茶でも飲みまほか」（水野、「言い寄る」261頁）
- ・「そのうち、無人島へでも流れ着いたら、そんな生活しまほ。いやや、いうても、せんならん。」（東野、「愛の幻滅」227頁）

表6 関連語形の比較

|      |        | ですな/<br>ますな | ですね/ますね | ですわ/<br>ますわ | でっせ/<br>まっせ | ですよ/ますよ |
|------|--------|-------------|---------|-------------|-------------|---------|
| 私的生活 | 乃里子 33 | 0           | 4       | 14          | 0           | 0       |
| 愛の   | みちる 28 | 4           | 2       | 1           | 1           | 1       |
| 愛の   | 眉子 28  | 2           | 5       | 2           | 1           | 1       |
| 言い寄る | 乃里子 31 | 0           | 1       | 3           | 0           | 1       |
| 苺を   | 乃里子 35 | 0           | 2       | 0           | 0           | 1       |
| 苺を   | 剛 33   | 1           | 3       | 0           | 1           | 1       |
| 苺を   | とむ 40  | 1           | 0       | 2           | 0           | 1       |
| 苺を   | 銅鑼男 40 | 0           | 0       | 1           | 1           | 1       |
| 私的生活 | 剛 31   | 3           | 4       | 2           | 1           | 2       |
| 愛して  | 係長 40  | 3           | 0       | 2           | 2           | 2       |
| 風を   | ワタル 23 | 1           | 0       | 0           | 0           | 3       |
| 言い寄る | 剛 29   | 4           | 2       | 4           | 1           | 3       |
| 愛して  | すみれ 34 | 0           | 3       | 5           | 0           | 3       |
| 風を   | すみれ 35 | 0           | 6       | 11          | 0           | 6       |
| 愛して  | ワタル 22 | 1           | 6       | 0           | 0           | 8       |
| 風を   | 伊豆 42  | 20          | 4       | 4           | 1           | 12      |
| 私的生活 | 中杉 47  | 22          | 18      | 3           | 1           | 13      |
| 言い寄る | 水野 46  | 14          | 4       | 2           | 0           | 20      |
| 愛の   | 東野 41  | 21          | 0       | 0           | 6           | 24      |
|      | 計      | 97          | 60      | 42          | 16          | 103     |

表6は、共通語の丁寧なスタイルにおいて使用頻度が高いと思われるデスネ・マスネ、デスヨ・マスヨを数え、それと意味の似た方言形式の出現を比較のために隣り合わせに並べたものである。デスヨ・マスヨの少ないものから多いものへ並べた。

40代男性7名のうち、伊豆・中杉・水野・東野の4名は、とむ・銅鑼男・係長に比べて登場場面が多くセリフも多いが、デスヨ・マスヨの多さは、この4名の登場頻度にほぼ比例している。一方、デスヨ・マスヨと文法的にはほぼ同様に使えるデッセ・マッセは、必ずしも40代男性に多くなっていない。デスワ・マスワも相手に何かを告げ知らせるといふ働きはデスヨ・マスヨと同じであるが、40代男性に多いわけではない。

デスナ・マスナは伊豆・中杉・水野・東野の4名に共通して多いが、デスネ・マスネは、中杉だけが多くなっている。

## 4 考察

### 4.1 年齢・性別と転訛形・非転訛形

#### 4.1.1 登場人物の年齢について

ここでは、登場人物を、年齢と性別によって次の3つのグループに分ける<sup>11</sup>。

- ・若年女性4人：乃里子（31→33→35）、すみれ（34→35）、眉子（28）、みちる（28）
- ・若年男性2人：ワタル（22→23）、剛（29→31→33）
- ・中年男性7人：銅鑼男（40くらい）、とむ（40くらい）、係長（40）、東野（41）、伊豆（42）、水野（46くらい）、中杉（47）

若年層と中年層の境目をどこに置くかについては議論もあろう。作品の中で登場人物の年齢がどのように描かれているかを見てみよう。

「言い寄る」の水野（46, 7）について、乃里子（31）は「私からみると、気の遠くなるほど長く生きてる気がする」（257頁）と考える。水野は乃里子に「僕ぐらいの年ごろになると、もうあんたみたいな若い人とは、つき合わんね」（121頁）という。

「私的生活」の中杉（47）について、乃里子（33）は「あの水野と、彼とどっちが年上かなあ、なんて」（77頁）「中杉氏が好ましい、というのは、（あたしって中年好みなのかな）」（78頁）と考える。

「風を」の伊豆（42）について、すみれ（35）は、「伊豆サンは42歳だというが、『いやもう、今は若い人がどんどん伸びて』といい、彼にかかると私も『若い人』である。」（12頁）とある。

つまり、40代の水野・中杉・伊豆は、30代の乃里子・すみれから見て、別の世代に属する人物として扱われていると言ってよい。方言調査などで、30代と40代を「中年層」としてひとくくりにすることがあるが、今回分析対象とした小説においては、30代と40代は別の世代として扱われていると解釈できる。そこで本稿では30代以下を若年層、40代を中年層と呼ぶことにする。次節から、年齢・性別のグループごとに特徴を見ていく。

#### 4.1.2 中年男性と転訛形・非転訛形

表3で見たように、デスマス非転訛形のデスナ・マスナは、中年男性の占める割合が高く、80%を超えていた。

それに比べて、表2で見たように、デスマス転訛形は、中年男性が必ずしも圧倒的に多いというわけではない。デスマス転訛形の中で出現数の多かったマヘンとデッセ・マッセについて、中年男性の占める割合をみると、マヘンは38例中23例（約60%）、デッセ・マッセは16例中11例（約70%）となる。つまり、マヘンやデッセ・マッセのようなデスマス転訛形も、中年男性に多いという傾向はあるのだが、非転訛形であるデスナ・マスナの方がさらに、「中年男性」に強く傾いているといえる。

表4の、マヘンの転訛率を見ると、個人差が大きく、同じ中年層男性でも、伊豆と水野は転訛率が低く、中杉・係長・とむは中くらいで、東野と銅鑼男が高い。

表6で見たように、セリフの多い中年男性4人（伊豆・中杉・水野・東野）の中で、中杉が飛び抜けて、デスネ・マスネが多かった。これは、中杉の性質によるのではなく、主人公との関係によるものと考えられる。伊豆は、主人公すみれの見合い相手であり、深い関係ではないが親しくなろうとしており、心安く話している。水野は、主人公乃里子（当時未婚）と深い関係になり、ほぼ恋人に近い。東野は、主人公眉子の恋人である。中杉の場合はというと、主人公乃里子は、昔の水野と共通するものを感じ、節度を保ちつつも甘える場面があるのだが、中杉の方は乃里子に対して親しみと理解を見せつつも、既婚者であることに気を使って、一定の節度を崩さない。このことが、デスネ・マスネの多用につながっているのだらうと思われる。

#### 4.1.3 若年男性と転訛形・非転訛形

若年層男性はワタル（22→23）と剛（29→31→33）の2人であるが、傾向が異なる。

ワタルは、デスマス転訛形については、「愛して」「風を」のいずれにおいても、使用ゼロであった。デスマス非転訛形については、「愛して」の大学生の時はマスナを1回使っただけだが、「風を」の社会人1年目になると、デスナを1回、デスネンとマスネンを1回ずつ、マスマヤロを2回、使っている。

剛は「言い寄る」「私的生活」「苺を」の全てにおいて、デスマス転訛形を使っている。しかも、マヘン・マッセ・デッセ・マンネン・マッシュャロと様々な転訛形を駆使している。剛は、マセンがなくマヘンの転訛率が100%、という点でも特徴的である。デスマス非転訛形についても、デスナ・マスナやデスワを使っている。

しかし剛は、大阪方言語形のみ使っていて共通語形を使わないのかというと、そうではない。表6を見ると、デスナ・マスナ合計8回に対してデスネ・マスネを合計9回使っている。デッセ・マッセ合計3回に対しても、デスヨ・マスヨ合計6回、となっている。つまり同様の意図を表現する場合、共通語形を使うこともあるのだが、その上で、デスマス転訛形やデスマス非転訛形を取り混ぜて使っているのである。

#### 4.1.4 若年女性と転訛形・非転訛形

若年女性4人の中では、すみれ・乃里子・眉子がデスマス転訛形をわずかしか使わないのに比べて、主人公ではない（つまりセリフ数も他の3名ほど多くない）みちるが、デスマス転訛形を比較的よく使っている。みちるはデスナ・マスナを使う点、マヘンの転訛率が高い点、でも特徴的である。

4人に共通した特徴というのは特には見出せない。

## 4.2 年齢・性別以外の属性と転訛形・非転訛形

ここでは、身分・職業や性格といった属性に関わる特徴をみる。ワタル、銅鑼男、剛、の3人について取り上げる。

先にも見たように、「風を」のワタルは「愛して」のワタルよりも、デスマス非転訛形の使用が増えている。大学生から社会人になって、ことばづかいが変わったわけである。このことについては、小説内でも言及されている部分がある。当該箇所を引用する。

・もともとワタルは人なつこい男の子じゃあったけれど、大学生のころはまだ磨かれてない原石というか、（略）しかし一年ちかい社会人生活で、ぐっと洗練されてきて、言葉遣いも頓に垢ぬけ、物腰もオトナっぽくなって（「風を」200頁）

これは、すみれが自宅でワタルと夕食を食べているところに伊豆が訪ねてきて、ワタルが伊豆を愛想よく迎え入れる場面における描写である。伊豆に対するワタルの態度を見て、すみれが「大人っぽくなった」と感じているのである。この後、ワタルと伊豆は仲よく酒を飲み始め、ワタルのデスマス非転訛形が出現する。

- ・「あ、どうも」と仲よく差しつ差されつ、初対面だというのに、「いざとなったら、タクシーよびはったらどないですねん、タクシーは走ってますやろ、つかまえますよ、僕」なんてワタルはなれなれしくいう。（「風を」203頁）
- ・「会社でもありますやろうね」（同207頁）
- ・「僕、親父が歌うからおぼえました、知ってますねん、あんがい」（同209頁）

このワタルについての描写とセリフから、デスマス非転訛形を年長者に向かって使うことが、「大人」「社会人」という属性らしさの印象につながるものと考えられる。

次に、銅鑼男である。中年層男性の中で、銅鑼男は出現場面がごく少ない割にはデスマス転訛形が多かった。用例をあげる。

- ・達者な大阪弁で、「骨折してまへんか」（「苺をつぶしながら」123頁）
- ・「あんた、ちょっとそら、休まな、あきまへんデ」（同124頁）
- ・「そんなへま、しまっかいな、ちゃーんとそのへんは物慣れてます。」（同126頁）
- ・「人間にはこれが最高のクスリでっせ、わるいことはいいまへん（略）」（同127頁）
- ・「ほんまに要りまへんか？ あげますけど」（同129頁）

銅鑼男は乃里子にとってゆきずりの相手であり、話すのは122頁から130頁にかけての一続きの場面だけだが、その中にこのように転訛形が多く出現する。上記の場面では乃里子は銅鑼男の職業を知らなかった。銅鑼男についての描写は、次の通りである。

- ・何の仕事をしてるのか、わりに上等な服を着込んで、持ちものもいいものを持ち、(略)サラリーマンみたいでもないし、学校の先生でもないようだし、砕けているが物わかりよさそう、四十ぐらいかしら、(同125-6頁)
- ・砕けているが適度にインテリジェンスがあるし、ほんとに何の商売だか(同129頁)

数ヶ月後、乃里子はホテルのロビーでテレビ画面の中に、偶然銅鑼男を見つける。

- ・何だか落語家のようなのである。(略)銅鑼男じゃないか、あれは！(略)私は(ハハア……)と思った。銅鑼男はそういえば芸人と思えなくもない雰囲気、何より滑脱なオシャベリだった、(略)もしあの銅鑼男が「夢金」師匠だとしたらほんとに、ぴたっとつじつまがあう、というところである。(同209-210頁)

銅鑼男については、「達者な大阪弁」「練れて明晰な大阪弁」「快活な大阪弁」のように、話し方の様子と大阪弁であることが繰り返し描写される。「口軽で親切でマメマメしく」「何となく可愛げのある男」ともある。達者で快活で練れた大阪弁、愛想がよく感じがよいこと、適度なインテリジェンス、これらの印象から、落語家であることがわかった時に乃里子が「つじつまがあう」と思い、何者なのか明らかでなかった謎が解けて、深く納得したわけである。落語家らしく感じさせる大阪弁の具体的な要素の1つとして、デスマス転訛形があるのだろうと思われる。

最後に、剛についてである。剛は、若年層の中では最も多くデスマス転訛形を使っている。それは29歳、31歳、33歳とほぼ変わらない。年齢ではない部分で、剛の持っている特徴と関連がありそうだ。それに関連する部分を、少し長くなるが引用する。

- ・彼(=剛)は手をこすりあわせ、悦に入っていて、「むりいうてすんまへん」というので、私(=乃里子)は笑わずにはいられなかった。わりに商売人やな、と感じた。

大阪では、ツトメ人とショウバイ人とは別の人種、ということになっている。これは職業上の区別ではなく、性格上の分類なのである。(略)サラリーマンでも商売人といわれる人もある。つまり性格上のツトメ人というのは、ゆうずうきかず<sup>ス</sup>四角四面<sup>エ</sup>で、理屈の多い、几帳面すぎる人、ショウバイ人といわれる性格は、円転滑脱で、伸縮がきき、話がわかり、茶目つけがあり、そのくせ、いつのまにか言い分を通すというような、老巧なかけひきの人間関係を得意とする、そんな感じのものである。

だから彼が、そんな一端をちらりと仄見せたので、金持ちの息子であろうとなかろうと、商売人だな、と思ったのだ。ちなみに大阪では、商売人というと、これは讚辞なのである。（「言い寄る」37頁）

ここで詳しく描写されている大阪の「商売人」の性格と、デスマス転訛形との間に、関連があると思われる。つまり、真面目すぎず融通がきき、陽気で駆け引きが上手、というような性格を持つ人の言語的特徴の1つとして、デスマス転訛形がありそうだ。この性格は、銅鑼男の「落語家」にも通じるといえよう。

#### 4.3 転訛形・非転訛形と文脈との関係

ここまで見てきたように、デスマス転訛形は、中年男性に多いという傾向がある。また「商売人」的な性格を持った人がよく使うようである。

しかし、中年男性のいわば対極にある若年女性がデスマス転訛形を使う例がいくつか見られた。また、ここで扱った若年女性4名については、特に商売人らしいという描写もなかった。つまり、ここでの若年女性については、属性ではなく、特定の文脈によって、デスマス転訛形を使った可能性が高い。デスマス転訛形の使用が比較的多い、「愛の幻滅」のみちるの例から、どのような文脈で使われたのかを検討しよう。

・「冬が問題でっせ」とみちるは脅かすようにいう。（略）「寒いときに水洩たらして家へ帰ってみ。欲も得もなく、スグ暖かいものが食べとうなってね。独立の、自由の、というてられまへんで」みちるは私と伺いどしの古手の女子社員だが、かわいい美人である。そうして、ときどき、趣味的な大阪弁を使う。（「愛の幻滅」83頁）

みちるは男っぽいわけではなく、粗暴さやくたびれた感じもない。中年男性に近い雰囲気は全くないのである。上記のセリフの中の「帰ってみ」「食べとうなってね」などはごくふつうの大阪弁と考えられることから、「趣味的な」大阪弁というのは、デスマス転訛形のデッセやマヘンを指していると考えられる。他の例も見る。

・「それやったら、匙も金色でないと、似合いまへんな」とみちるはおどけて（同126頁）

上記の例を含めて、みちるがデスマス転訛形を使うのは全部で5例だが、主人公の眉子と2人で話すときに限られている。隣り合った机で仕事を進めながら小声で話したり、社内食堂で話したり、仕事帰りに買い物に行ったりしたときにおしゃべりを楽しむ。「趣味的」「おどけて」とあるように、自分の本来の言葉とは異なるというマーカ―を入れつ

つ、面白がって使っている。みちるには主人公だけでなく、上司や年上の女性社員、親しい年下の男性社員と話す場面もあるが、それらにはデスマス転訛形は出てこない。

ここで他の若年女性3人のデスマス転訛形使用もみる。少ないので全6例とも挙げる。

- ・（もうこれきり、「やさしさ」の玉は出まへんよ）（乃里子、「苺を」14頁）
- ・「営業一課の斉坂でございます。（略）」なんてやってるほうが、性に合ってるのかもしれまへんデ。（すみれ、「風をください」119頁）
- ・（それはワタルのサービス精神かもわかりまへんが）（すみれ、同212頁）
- ・（食えまへんから……）とワタルにもちかけたのでは（すみれ、同221頁）
- ・「ミイちゃんなんかのおくさんになると、たいへんやねえ……『よめはん、頼りにしてまっせ』なんてやられて結局、コキ使われてしまう」と私がいったら「そういうことです」と澄ましていて、（略）でも憎めない。（眉子、「愛の幻滅」95頁）
- ・（面倒ならやめればいいのに……）と、もう一人の私がいつているが、もう、やめられないから困るのだ。（しろうまへんな）と自分で返事してる。（眉子、同113頁）

6つの例のうち5つは、誰かに話すのではなく、自分の心のうちに思い浮かべていることばである。自分自身を少し突き放した感じで見つめているニュアンスである。

眉子の95頁の例だけは、目の前のミイちゃん（年下の男性同僚）に向かって発しているセリフだが、「～まっせ」の部分は、自分の言葉として発しているものではない。相手の言動を予想してそれを代弁するものである。あるいは、実際にミイちゃんが「頼りにしてまっせ」というかどうかは別として、ミイちゃんがそのような態度をとるだろうということを抽象的に表現するのにふさわしい言葉としてマッセを使っているものである。いずれにしても、眉子の95頁の例は、自分の言葉としてではなく引用としての使用である。

以上の例から、若年女性にとってのデスマス転訛形は、いつでもどこでも使えるというものではないことがわかる。内心の言葉として、あるいは引用の形ならば、使える。親しい友人と二人きりの時に使っても良いが、その場合も、冗談使用であることがわかるようなマーカールとともに使う必要がある。機能としては、からかいや冗談を含んだイヤミ（いわゆるツッコミ的）、という働きがあるとみてよい。

次に、デスマス非転訛形のデスナ・マスナについて検討しよう。これは転訛形よりもさらに、若年層女性の使用が少ない。その中でも比較的によく使うみちるの例から見る。

- ・「いつも月曜は元気いっぱいですなあ、おタクは」とみちるは、あてつけらしく私にいう。（みちる、「愛の幻滅」89頁）
- ・「そうなんよ、それが実現したら、べつにアメリカへ行かんでも、白浜温泉ぐらいで結構ですが、まあそれも見込み薄ですなあ」とアハアハ笑う。（みちる、同271頁）



この2例を含めて4例あるが、いずれもデスマス転訛形と同じく、みちるが主人公の眉子と2人で話すときに限られている。89頁の例は、「あてつけらしく」と書かれているが、決して本気の嫌がらせではなく、主人公を冗談でからかっているのは文脈から明らかである。また、271頁の例は、やや自嘲的なものである。小説の中でも「自分を客観的にみて、おかしがってる余裕がある」と評されている部分である。

他の若年女性の場合を見ると、乃里子とすみれは、デスナ・マスナの用例がない。眉子に次の2例がある。

- ・自分で鏡を見て、（いけますなあー）と自分で感心してる。（「愛の幻滅」87頁）
- ・「かなり、飢えておられますな。みちるとこはどやのん。」（「愛の幻滅」90頁）

1つ目の例は、眉子の心の中の言葉である。2つ目は、眉子がみちるに対して、冗談モードで話しているところである。

以上のことから、デスマス非転訛形のデスナ・マスナも、デスマス転訛形と同様、若年女性が使用する文脈は内心の言葉、もしくは親しい友人と2人で話すときに限られており、機能としては、他人もしくは自分への冗談、からかい、ツッコミの表現である。

## 5 まとめ

以上、本稿では、田辺聖子の1970年代から1980年代にかけての長編小説におけるデスマス転訛形とデスマス非転訛形について検討してきた。その結果をまとめると、次のとおりである。

- (a) デスマス転訛形とデスマス非転訛形を比べると、転訛形の方が中年男性語の性質が強いようなイメージがあるが、今回扱った田辺作品における登場人物のセリフからは、転訛形よりむしろ非転訛形デスナ・マスナの方が、中年男性一般の日常的な使用語彙であると考えられた。
- (b) 中年男性は転訛率の高低には個人差があるが、全員マヘンを使用しており、マヒョを使うのも中年男性のみであることから、中年男性がデスマス転訛形をよく使う傾向がある、とはいえる。
- (c) デスマス転訛形は、真面目すぎず融通がきき、陽気で駆け引きが上手、というような性格、すなわち「商売人的」な性格を持つ人物が多く使っていた。
- (d) デスマス非転訛形は、学制的でない、「大人」のことばであると考えられた。
- (e) 若年女性の場合は、デスマス転訛形も、デスマス非転訛形も、内心の言葉として、もしくは引用の形としてならば、使用可能なようである。人に向かって自分のセリフ

として使うとすれば、親しい友人と二人きりの時に、冗談使用であることがわかるようなマーカーとともに、使う必要がある。自分をやや突き放した視点からみる、あるいは、人に対してからかいや冗談を含んだイヤミ（いわゆるツッコミ）を言う、という機能を持つことになる。

(f) デスマス転訛形を全く使わない人物は、今回扱った13人の人物の中では、20代前半の男性1人だけであった。前項で述べたように、若年女性にとっては注意を払いながら使わなければならないものだが、使用語彙の選択肢に入っていることは確かであろう。

## 6 おわりに

まとめの(e)(f)で述べたように、若年女性にとってのデスマス転訛形やデスマス非転訛形は、何気なく使えるものではない。注意を払いながら使うことによって、特定の機能を持つボキャブラリーとして有効になるものである。

このような、ある機能を目指しつつ、使い方に注意を払いながらことばを発すること、すなわちことばを注意深くコントロールする技、といったものに今後も注目したい。

おそらく、今回、分析した登場人物の中の剛の使用状況も、そのような技と関わりがあるだろう。剛は連作「言い寄る」「私生活」「苺を」の全てにおいてデスマス転訛形を使っており、しかも、様々な転訛形を駆使していた。それに加えて、同様の意図を表現するのにデスマス非転訛形も、共通語形も使っている。様々な語形の使いこなしが、ことばのコントロールの技、という観点から分析できるはずである。

本稿では、世代や性別や性格といった話し手のアイデンティティーに関わる要素から、デスマス転訛形とデスマス非転訛形の使用状況を見てきた。デスマス転訛形・非転訛形とデスマス体・非デスマス体との関係については、みていない。しかしそれも重要な問題であると考えてるので、現在、別稿を準備中である。

## 付記

本稿は、村中淑子(2004)「大阪方言におけるデス・マス+文末詞 -中中年男性語かどうかの検討-」（『静岡・ことばの世界』6）で用いた資料を、当時使っていなかった「デスマス転訛形」という術語を用いて再分析したものである。村中(2004)ではデスマス転訛形と非転訛形を分けずに「デスマス+ $\alpha$ 」と一括して扱っていた。本稿では新たに表を作成し大幅に加筆修正を施したが、「はじめに」や分析の文に村中(2004)の文章を残した部分もある。

【注】

<sup>1</sup> 杉戸(1992)に「場面的要素とは、場所・場所柄・事態・状況などの空間的条件、時間・時刻・時代などの時間的条件、どんな媒体や接触方法で言語行動を実現するかという媒体の条件、その状況が参加者に与える心理的条件などが中心となる。」「人的要素とは、その言語行動の主体、相手、話題の登場人物、わきにいる間接的な聴衆などであり、それらの人の生得的(性・年齢など)、社会的(出身地・居住地・職業・学歴・階層・地位など)、心理的(性格・志向性・その場での心理状態など)な諸側面でとらえた属性や、年齢や階層・地位などから見た上下関係、つきあいの程度に代表される相互の親疎関係、役割や立場の関係、など人的要素の間のいろいろな相互関係が問題とされる。」とある。

<sup>2</sup> ここで挙げたア・イ・ウ・エは網羅的なものではない。他にも、和語・漢語・カタカナ語のどの語種を使うか、遠回しな言い方をするか直截に言うか、など多くの選択肢があり得る。ア・イ・ウ・エは相互に排反的なものでもない。また、ここで言語変種と呼んでいるものは、語彙だけではなく音声的あるいは文法的特徴も含むものである。

<sup>3</sup> 真田・ロング(1992)が「話者の属性と、話者自身の抱いているアイデンティティとは異なる場合が少なくないようである。」「アイデンティティは、自己の属性に対する意識、というふうに捉えることができる。」と述べているように、話者のアイデンティティは、本当にそのカテゴリーに属しているかどうかとは必ずしも関わりがない。

<sup>4</sup> 大阪出身の複数の20代女性の談話に自称詞ワシの使用を観察したことがある。

<sup>5</sup> これ以下の記述は、大阪方言に限らず京都方言・神戸方言などの、関西方言一般にもかなりの程度当てはまるものと思われるが、ここでは便宜上大阪方言としておく。

<sup>6</sup> 村中淑子(2017)では「デスマス体の転訛形」、村中淑子(2019)では「デスマス転訛形」と呼んでいる。

<sup>7</sup> 田辺聖子の、中年ものの長編小説としては、「求婚旅行」「すべてころんで」「夕ごはんたべた?」「中年ちゃらんぽらん」「おかあさん疲れたよ」などがある。

<sup>8</sup> 銅鑼男というのは本名ではない。「苺をつぶしながら」の乃里子がイタリア料理店で偶然出会った中年男で、互いに名乗っていない。「銅鑼のように大きい丸い、赤い顔を」した男で、乃里子が心の中で「銅鑼男」と呼んでいる。

<sup>9</sup> 表2から表6まで、長い作品名は略称で示した。「苺をつぶしながら」→「苺を」、「愛してよろしいですか?」→「愛して」、「風をください」→「風を」、「愛の幻滅」→「愛の」、である。

<sup>10</sup> 小説のセリフであるからイントネーションは不明であるが、本稿で扱うデスワ・マスワは、東方言における女性語的なデスワ・マスワではない、と見ている。すなわち、デスワ・マスワのワは、拍内上昇音調を持つワではなく、上昇しないワであると見る。

<sup>11</sup> 「私的生活」「苺をつぶしながら」の原こずゑや「苺をつぶしながら」の桑田芽利は40代以上の女性であり、中年層女性として比較できるとよいのだが、セリフが少なくデスマスもほぼ使わないため、扱っていない。

【参考文献】

- 井出祥子, 1992, 「言語とアイデンティティ」『月刊言語』21(10):28-33.
- 井上史雄, 1994, 『方言学の新地平』明治書院.
- 尾崎喜光, 1999, 『日本語社会における言語行動の多様性』新プロ「日本語」研究班2報告書.
- 岸江信介・井上文子, 1997, 『地域語資料3京都市方言の動態』近畿方言研究会.
- 金水敏, 2003, 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- 郡史郎, 1997, 「I 総論」「II 府内各地の方言」『大阪府のことば』明治書院, 2-61.
- 真田信治, 2001, 『方言は絶滅するのか』PHP 新書.
- 真田信治・ダニエルロング, 1992, 「方言とアイデンティティ」『月刊言語』21(10):72-79.
- 杉戸清樹, 1992, 「第3章 言語行動」真田信治・渋谷勝己・陣内正敬・杉戸清樹『社会言語学』おうふう, 29-47.
- 田原広史・村中淑子, 2002, 『東大阪市における方言の世代差の実態に関する調査研究2 -待遇表現-』平成9・10年度東大阪市地域研究助成金研究成果報告書2.
- 都染直也, 1993, 「生の方言/脚色された方言」『月刊言語』22(9):68-75.
- 前田勇, 1949, 『大阪弁の研究』朝日新聞社.
- 前田勇, 1961, 『大阪弁入門』朝日新聞社.
- 村中淑子, 2004, 「大阪方言におけるデス・マス+文末詞 -中高年男性語かどうかの検討-」『静岡・ことばの世界』6:18-30.
- 村中淑子, 2017, 「関西方言におけるデスマス体の転訛形についての試論 -『NHK 全国方言資料』を用いて-」『現象と秩序』6:1-30.
- 村中淑子, 2019, 「関西方言のデスマス転訛形の発生について -近世後半から明治期にかけての資料をもとに-」『方言の研究』5:161-186.
- 山本俊治, 1962, 「大阪府方言」『近畿方言の総合的研究』三省堂, 421-494.
- 山本俊治, 1965, 「女子学生の方言意識とその実態(2)-大阪方言を素材として-」『武庫川女子大学紀要人文科学篇』12 (『日本列島方言叢書16 近畿方言考④(大阪府・奈良県)』ゆまに書房1996所収).
- 山本俊治, 1982, 「大阪府の方言」『講座方言学7 近畿地方の方言』国書刊行会, 195-228.

\*\*\*\*\*

【編集後記】 『現象と秩序』第11号をお届けします。今号より編集長が交代しました。とはいえ、編集作業については右も左もわからない状況であるため、編集作業自体は前編集長の主導下でおこないました。前編集長および編集委員、編集幹事、編集・印刷協力をいただきました皆様の多大なるお力添えに、ここに感謝の意を表したいと思います。

さて、今回は、2つの特集（各2本）と2本、合わせて6本の論考が収録されています。

第1特集「学問の不可視の前提を外して研究しよう」では、第17回福祉社会学会における同テーマの報告を、論考の形にいただきました。「普段気づかれないこと」、とりわけ「業界の常識」といった「不可視の前提」に縛られていて気づかれないこと、あるいは気づかないようにしていたことを明るみにしていくことは、生活者のリアリティに沿った学問の確立にとって重要な作業だと思われま

す。第2特集「音楽療法のエスノメソドロジー」では、両論考とも音楽療法場면을撮影したビデオデータを扱っています。拙稿の話で恐縮ですが、データを見ているうちに次々と新たな気づきが生まれ、当初書こうと思っていた内容とは全く異なるものになってしまいました。しかし、これこそが、データから理論をつくり上げる過程なのだろうと感じています。

昨今、量的データには表れえない、質的データへの関心が高まりつつあります。第2特集の前書きにも記しました私生活データへの関心は、「気づかれていないこと」あるいは「気づかなくてもいいと思われていたこと」への関心です。こうした生活環境データは、身体化されているがゆえに、当事者にとって言語化しづらいデータでもあります。それを記述していくスキルは、社会調査教育において今後より重視されるべきではないでしょうか。

ご意見やご要望、また、今後の特集に関するご提案等ございましたら、下記の編集室までお知らせくださいますと幸いです。今後とも『現象と秩序』をよろしく願いたします。

(Y.H.)

\*\*\*\*\*

『現象と秩序』編集委員会（2019年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（愛知学泉大学）

編集委員：檜田美雄（神戸市看護大学）、中塚朋子（就実大学）

編集幹事：尾崎友祐（神戸市外国語大学）

編集協力・印刷協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第11号 2019年 10月31日発行

発行所 〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学 檜田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX) 078-794-8074（檜田研）， e-mail: kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN : 2188-9848

ONLINE ISSN : 2188-9856

<http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html>